

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和3年12月号



## 長南町レンコン産地の維持・発展のために — レンコン産地の担い手確保に向けた取組 —

長生農業事務所 改良普及課  
主任上席普及指導員 染谷 肇

長南町はレンコン栽培の歴史が古く、県内でも有数のレンコン産地として知られていますが、高齢化、後継者不足などにより栽培面積は縮小しています。そこで、生産者の技術交流を図り、積極的に新規就農者を受入れ産地の活性化に取り組んでいます。

### 1 取組の背景

長南町ではレンコンが特産野菜として生産されており、産地として確立しています。しかし近年、高齢化による生産者・生産面積の減少、労力不足、後継者不足などにより産地が縮小しつつあります。

こうしたことから、関係機関と産地の振興方向を整理・共有するとともに、地元の長南町蓮根組合と連携して、新規就農者を含む若手の担い手育成に取り組みました。

### 2 活動の内容

#### (1) 産地の現状把握

町やJAとの連携により産地の振興方針について検討し、生産者にアンケートを実施しました。そこで産地の作付や従事者の現状を明らかにし、担い手対策などの課題を共有しました。



勉強会で活発な意見交換

#### (2) 新規就農者受入体制の整備

若手生産者を中心に産地存続の危機感から、組合として新規参入者等の受入れや育成について対応することになりました。具体的には、ベテラン生産者からの生産技術の伝承、研修生の受入れや組合加入促進のための規約の改正などに取り組みました。一方、町では組合からの要請に応じて地区を限定して農地法の農地利用取得の下限面積を引き下げ、町単補助事業の面積要件緩和などを行いました。

#### (3) 組合での技術交流

組合では関係機関と連携しながら、視察研修、ほ場巡回、目揃え会や品評会などを定期的に行い、技術交流を図っています。また、栽培記録簿の記録徹底により肥培管理を行い、収量や品質の向上、病虫害対策に取り組んでいます。さらに、所得向上への取組として早期出荷に対応できる早生系品種の導入を推進しました。



現地ほ場巡回で技術交流の促進

#### (4) 勉強会の開催

若手レンコン生産者3名による勉強会を発足し、自身の経営や今後の産地の方向性などについて意見交換を行ってきました。現在では新規に女性組合員も加わり、肥培管理の確認や病虫害防除の情報収集など活発に意見交換がされ、明るい雰囲気になっています。

### 3 今後について

現在組合では、20代の新規参入者を研修生として受入れており、今後も積極的に担い手育成に取り組めます。また、農地の継承や新たな担い手の確保に向け有効な対策がとれるよう、生産者と関係機関が連携していきます。さらに、経験の浅い生産者の栽培技術が向上し、経営的に安定するよう組合活動の充実を目指していきます。

野菜ニュース



## トマト 高収量、高品質栽培の実証

全国農業協同組合連合会千葉県本部  
営農支援部 営農技術普及課 田代 健一

JA 全農ちばでは生産者所得増大と農業生産の拡大等の取組を強化するため、令和元年 8 月 営農技術センター内に栽培実証施設を竣工し、大玉トマトの栽培実証を開始しました。1・2 作目 実証結果及び令和 3 年 8 月 26 日に定植をした 3 作目取組内容について紹介します。

### 1 施設の目的

同施設は①施設園芸の生産基盤の維持・拡大②施設園芸の高収量・高品質生産モデルの確立③担い手・新規就農者やJA担当者等の人材育成を目的に設置されました。現在は実証 3 年目となり、環境制御技術を活用した高生産技術の栽培実証・普及に取り組んでいます。

### 2 取組内容

栽培実証施設における取組内容は 7 点になります。

①環境制御技術を導入して高収量・高品質の生産技術の実証と普及②ういず One（全農式トロ箱養液栽培システム）による多収栽培技術の実証③市場にて生産物の販売を行い品質の評価④植物生理、環境制御・施肥及び病虫害防除等に係る技術講習の開催⑤栽培技術・情報の担い手への発信⑥担い手・新規就農者及びJA担当者等の研修施設として実証施設を活用⑦GAP手法の実践。

※「ういず One」とは：発砲スチロール製の栽培槽と簡易な養液装置を用いた栽培システム。メリットとしては①移動が容易で場所を選ばず設置可能②自主施工が可能③隔離床であるため病害対策、灌水量の適正化、根域制御が可能。

### 3 実証 1、2 年目栽培実証結果について

実証 1 年目は、産地にて課題となっているトマト黄化葉巻病耐病性品種を令和元年 8 月に定植し、年 4 作 6 段摘芯栽培にて翌年 7 月末まで栽培を行った結果、

出荷量 30t/10a（LM 玉比率 64%）と出荷量目標 30 t / 10 a は達成しましたが、A 品率 24%となり品質に課題が残りました。

実証 2 年目は、同期間にて接ぎ木 2 本仕立て長期多段取りにて作業管理を徹底した結果、出荷量 37t/10 a（LM 玉比率 64%）、A 品率 33%と前年を上回る結果となりましたが、冬期日照不足下において A 品率が低く推移しました。

その他取組として視察、研修会を開催し 1 年目 77 人、2 年目 147 人の生産者、JA 職員、関係機関の方に来場いただきました。更に千葉県産トマトの生産振興を図るため、JA 営農指導員を対象にトマト専門指導員資格認証研修会を令和 2 年 8 月より開催し、8JA12 名の方が受講しました。受講者は産地における課題や解決策を共有し反収及び品質向上につなげています。

### 4 実証 3 年目取組について

実証 3 年目では冬季群落内受光量の不足を改善するため、株間を従来よりも広げ A 品率の向上に取り組みます。更に 1 月初旬以降に側枝伸長を行い、栽培本数を 3 割程度増加させ高収量を目指します。また、今作は実証から得られた知見を栽培の手引きとしてまとめ、県内に栽培技術を普及します。

JA 全農ちばは、今後も関係機関と協力して千葉県産トマトの更なる品質向上と生産拡大に向けた活動を行い、農家手取り最大化に取り組んでまいります。

### 表 栽培実証施設の概要

#### 【軽量鉄骨ハウス温室】

設置場所	千葉県成田市並木町大久保台（営農技術センター内）
ほ場面積	624 m <sup>2</sup> （間口 8m×2 連棟、奥行 39m）、前室 48 m <sup>2</sup> 、合計 672 m <sup>2</sup> （約 204 坪）
栽培品目	大玉トマト
栽培期間	令和 3 年 8 月 26 日（定植）～令和 4 年 7 月末
軒高	3m
被覆材	エフクリーン GR80
設備	複合環境制御装置（MC6001）、細霧装置、二酸化炭素発生装置（グロウウェア）暖房機（簡易ヒートポンプ含む）、両側天窓、遮光カーテン、保温カーテン（LS スクリーン）、循環扇、換気扇、トロ箱養液栽培「ういず One」、高所作業台車



営農技術センター栽培実証施設にて研修を受講する参加者（生育調査実習）

花植木ニュース



## カラー新品種「Brilliant·Bell」の育成

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所  
野菜・花き研究室 主席研究員 種谷 光泰

千葉県農林総合研究センターでは、20年ぶりに湿地性カラーの新品種を育成しました。この新品種の愛称は、「Brilliant·Bell(ブリリアント・ベル)」に決まりました。本年10月から切り花の出荷が始まっています。

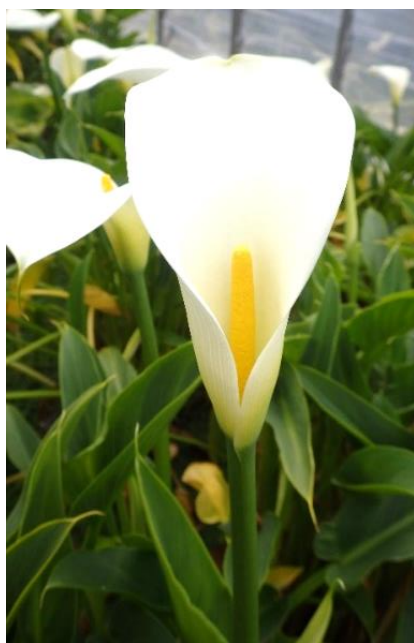
### 1 愛称の決定

君津市では豊富な地下水を利用して、結婚式等で使われる湿地性カラーの切り花生産が盛んです(「千葉の園芸」本年8月号参照)。

産地からの要望を受けて、当センターでは、病気に強く、開花時期が早い湿地性カラーの優良品種育成に平成21年から取り組んできました。その結果、令和元年に新品種「千葉C2号」を品種登録出願しました。平成11年の「アクアホワイト」以来のカラー新品種となります。

昨年、「千葉C2号」の愛称を募集したところ、全国から1,952点もの御応募をいただきました。花の生産者や流通関係者等をメンバーとする委員会で、品種の特徴、親しみやすさ、インパクトなど様々な視点から選考を進め、愛称を「Brilliant·Bell(ブリリアント・ベル)」に決定しました。

この愛称には、真っ白なベルのような花からのイメージで、未来を輝かせる新しい門出に、お祝いの鐘の音が響きますように、という祈りが込められています。



写真「Brilliant·Bell」の花(苞)

### 2 「Brilliant·Bell」の特徴

- (1) 交配親は「ウェディングマーチ」と「マジョリーホワイト」です。花(苞)は、ややクリームがかかった白色で重なり部分が少ないという特徴を有します(写真)。これまでの湿地性カラーの切り花と比べて小ぶりで花茎が細いため、アレンジやブーケにも使いやすく新たな需要が期待されます。
- (2) 重要病害であるカラー疫病に対する抵抗性は、既存品種の「ウェディングマーチ」に劣りますが、「アクアホワイト」よりも強く、安定生産が可能です。
- (3) 株の生育がとても速く、定植してから1年以内で切り花の収穫が可能です。
- (4) 収穫本数は、「ウェディングマーチ」及び「アクアホワイト」に比較して多く、早い時期から開花するため、生産者の収益向上が見込めます(図)。

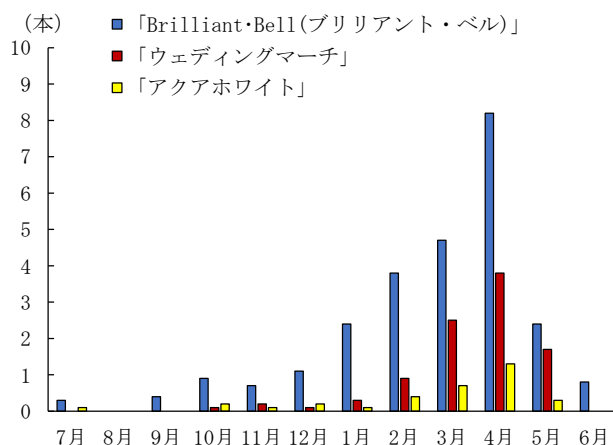


図 品種別の月別株当たり収穫本数(定植2年目)

### 3 おわりに

今シーズンの「Brilliant·Bell」の出荷量は少ないですが、来シーズン以降は出荷量が徐々に増えていく予定です。今後、消費者にもっと身近にカラーを楽しんでいただける機会が増えるのではないかと期待しています。

頑張る産地



## ノウフクナバナはじめました

夷隅農業事務所 改良普及課  
上席普及指導員 松野 健二

農業と福祉の連携＝農福連携の取組が、夷隅地域の食用ナバナ生産を舞台に始まっています。

### 1 産地の概要

夷隅地域は地下水位が高く粘性が強い土壌が多い地帯であるため、その土地利用の多くは水田としての利用がほとんどです。このような土壌条件でも栽培できる数少ない園芸品目として、個人農家、新規就農者及び営農組織等、多様な担い手が食用ナバナの生産に取り組んでいます。しかしながら、農業者の減少・高齢化等により栽培面積の減少に歯止めがかからない状況でした。

そんな中、令和2年に栽培面積8.9haと若干の増加に転じました。その原動力の一つが農福連携による食用ナバナの取組（ノウフクナバナ）です。

### 2 食用ナバナ生産での「ノウフク」について

ノウフクナバナの始まりは令和元年9月、いすみ市岬町の社会福祉法人土穂会 ピア宮敷が、有限会社高秀牧場の飼料畑(1.2ha)の裏作として食用ナバナ生産を始めました。

福祉分野とりわけ障害者就労を支援するサービス分野では、障害者が従事した作業に対する対価（工賃）の向上が課題となっています。そこでピア宮敷では、障害者の就労の場づくりと工賃向上を目的に、食用ナバナの生産に取り組み始めました。



昨シーズンの収穫風景 1本1本手で収穫



今シーズンは苗立ち順調 ～除草作業風景～

ノウフクナバナ3年目の今シーズン、ピア宮敷の他、夷隅郡市内の社会福祉法人や福祉作業所もノウフクナバナに参加し、日々の作業に励んでいます。

トラクターでの耕うんや管理機での中耕作業はピア宮敷職員が行っていますが、除草や収穫作業は障害者が積極的に行っています。障害者の中には、食用ナバナの栽培作業を経験する中で、「働く」ことに自信を深めることで、新たな就労先を見つけた方もいるそうです。このように、食用ナバナの「ノウフク」は障害者自身が就労し、また就労を継続するための重要な訓練の場にもなっているようです。

### 3 むすびに

食用ナバナで始まった夷隅での農福連携、その取組は地域で広がりを見せ、梨の剪定枝の回収・片付けや、水稻の播種作業の苗箱運びの作業請負など、労働力不足に悩む農業現場でも活動の幅を広げています。

今後も当地域の食用ナバナ生産において、健常者と障害者がともに働く風景が続いていくこと、さらにこれをシンボルとして農業分野と福祉分野がwin-winな関係を築いていけることを期待しています。

## 第42回 千葉県フラワーフェスティバルの開催

千葉県農林水産部生産振興課

昨年度は新型コロナウイルス感染状況を鑑み中止となりましたが、今年度は感染防止対策を徹底したうえで開催いたします。

切花、鉢花、観葉植物、洋らんなど、多種多様な生産を誇る千葉県産花きの魅力をお楽しみください。



前回（第40回）メインディスプレイ

### 会期

令和4年1月7日（金）～10日（月・祝）  
〔うち一般公開 1月8日（土）～10日（月・祝）〕

### 会場

（株）そごう・西武 そごう千葉店 6階催事場  
（JR、京成、千葉モルル「千葉駅」から徒歩約1分）

### 内容

花の品評会（出品点数約350点（予定））  
各種団体による花のディスプレイ花の体験教室、  
出品物即売会など

※開催直前で緊急事態宣言が発令された場合は  
中止とします

問合せ 千葉県農林水産部生産振興課  
電話 043-223-2871

## 令和4年度 農業者養成研修(前期)研修生募集

千葉県立農業大学校

県内で新たに就農する方や、既に就農している方を対象に基礎的な農業知識・技術を習得する研修を開催しています。

### 1 研修期間及び内容（令和4年度）

- (1) 基礎研修：4月7日（木）～6月30日（木）  
・ 講義、農場実習（野菜・花きの栽培管理）、プロジェクト実習等
- (2) 専門研修：4月7日（木）～9月30日（金）  
・ 基礎研修に加え、農家実習、トラクター研修等
- (3) 部門別研修：4月7日（木）～令和5年3月17日（金）  
・ 専門研修に加え、農家・プロジェクト実習を継続

### 2 応募受付期間

令和4年1月11日（火）～1月28日（金）（消印有効）

### 3 選考方法

書類審査、面接

### 4 受講料

1か月3,300円  
（教科書代等別途実費3万円程度が必要）

※詳細は農業大学校山武校農業研修科まで

電話 0475-78-4801

FAX 0475-88-2900

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



農場実習 野菜は種

## ちばの新しい梨「<sup>あきみつき</sup>秋満月」好評の声続々と！

千葉県農林水産部流通販売課

本格デビューを果たした秋満月を多くの消費者に知ってもらうため、10月10日(日)に「道の駅いちかわ」でデビューイベントを開催しました。

当日は、秋満月の重さを体験してもらう「重さ当てクイズ大会」や「チーバくんととの撮影会」に多くのファミリーが参加しました。

また、秋満月を実際に味わってもらうため、個包装した試食サンプルをデビューイベントや百貨店での販売会で配布し、WEBアンケートに回答すると「秋満月特製ピンバッジ(非売品)」をプレゼントするキャンペーンを実施しました。

さらに、SNSで募集した試食モニターに秋満月と新高を送付し、家庭で梨の食べ比べをしてもらい、試食後に自身のSNSに感想の投稿とアンケートに回答してもらうモニター調査を行いました。

アンケートの結果、「秋満月を食べた感想は？」の質問には、79%が「とても良い」、18%が「良い」という好意的な結果が得られました。また、「秋満月と新高どちらの食味が好きか？」の質問には、73%が「秋満月」、27%が「どちらも好き」という結果で、秋満月の食味を好む傾向が見られました。

引き続き、「秋満月」の認知度向上と生産拡大に向けた機運の醸成を図るため、関係機関と連携してPRに取り組んでいきます。



「道の駅いちかわ」でのデビューイベント

## 「ちばの直売所フェア2021」開催

千葉県農林水産部流通販売課

千葉県の農林水産物直売所の店舗数は、全国一位であり、都市住民が農山漁村の魅力に直接触れ、農林水産業への理解を深める重要な交流・販売拠点となっています。

今年も、県内の農林水産物直売所の魅力を消費者に広くPRし、認知度向上と今後の集客増加を図ることを目的とした「ちばの直売所フェア」を開催します。

15回目となる今回は、オンライン上で、地域PR動画や直売所情報を閲覧してクイズに答え、お気に入りの直売所に投票すると、抽選で直売所商品や県産農林水産物をプレゼントします。毎日投票及びプレゼントに応募できますので、たくさんの応募をお待ちしております。

【期間】令和3年12月15日(水)～令和4年2月15日(火)

【問い合わせ先】千葉県農林水産部流通販売課

電話043-223-2889

【ホームページ】<https://chiba-chokubai2021.jp>

